

# フォークランド停戦

共産研宣言

NO.10

1982.6.16 (Wed)

京都防学 共産主義研究会



## フォークランド紛争とは何か――その背後を探る。

緊急アピール

チャーチル英首相は14日夜(日本時間15日未明)、下院で「アルゼンチン軍は武器を捨て、白旗を掲げた。」と報告、英國々防省は「アルゼンチン軍との戦闘は終った。」と発表した。

アルゼンチン軍現地司令官(マルビナス知事)のメネンデス将軍が「降伏文書」に調印し、15日午前10時(日本時間午後10時)までの暫定停戦が発効した。73日ぶりに紛争は英國の軍事的勝利による終局を迎える。フォークランド問題は戦後処理問題へと新たな局面を迎えたことになる。(6月15日朝日)

島都ポートスタンリーでの流血を寸前で回避し、終局を迎えた今回のフォークランド紛争であるが、この住民僅か1800人、総面積12,000平方キロメートルの南の孤島が我々に提起した問題は何であるのか?

もう一度、この紛争勃発の時点から、この問題を再考してみる必要性を感じる。

### 何故アルゼンチンはいま 「武力行使」に出たのか

フォークランド諸島の領有権をめぐる紛争は、1832年より150年間の長期にわたり続けられてきた。その喧嘩合戦による解決の兆は立たなかった、とアルゼンチン側は主張している。しかしだからと言って何故、今、「武力行使」によって一挙に解決しようとしたのだろうか? その主な理由として次の2点がある。



### ① 国内情勢の悪化

アルゼンチン軍事独裁政権は、ペロン政権時代の指導者を徹底的に弾圧した。その逮捕、処刑は、9000人に及ぶといわれる。こうした弾圧のもと、3月末に、軍政下では初めての大規模な反政府デモが行なわれ、2000人が逮捕されるという事件が起きた。さらに悪いことに、経済は悪化し、150%ともいわれるインフレの中で、もはや国内情勢は絶望的状態に陥っていた。

今回の武力行使は、こうした失政から国民の眼をそらす為に行なわれたのである。しかも、武力によって既成事実をつくり、国際世論をあきらかにしたのは決して許される態度ではない。

### ② 背後で糸をひくソ連

より重要なもう1つの理由として、ソ連の存在が挙げられる。

ペニカーナ大統領は、アルゼンチンの人権抑圧を理由に、武器禁輸を行なった。それを契機として、アルゼンチンは急速に反米・親ソ連へと傾いていったのである。

80年にかけ穀物輸出協定を結び、81年には、対り輸出額は35億ドルにものぼったのであった。

こうしたアルゼンチンの歩みよりに対して、ソ連は、82年4月6日、収縮ウラン100キロを供与するという協定を結び、同時に、5億ドルに達する経済・漁業技術協力協定を結び、開拓援助を行う形で応えたのである。

ソ連スパイ衛星

南大西洋上に敷

ア国に情報提供

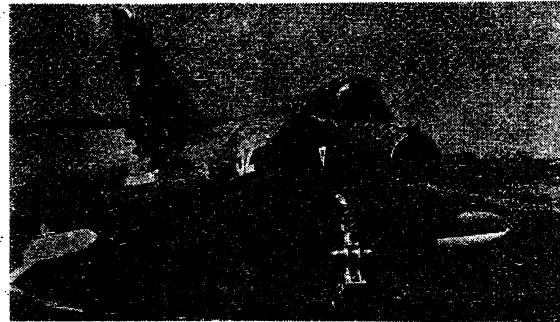
ソ連、英國を批判

アリバ大使と会見  
連大使と会見

ソ連、ア国に兵器供与

アルゼンチンの今回の「武力行使」の周到なる準備から見ても、その背後にソ連がやくれている事は否定できないであろう。

エグゼ・ミサイルを搭載したシュペール・エタンダール



\* アルゼンチンは、今から最新鋭の攻撃機シュペール・エタンダール12機を購入、3/22に受けている。

- またウルグアイ海軍との連合演習中に急に侵略を開始した点から見ても、少なくとも2月は準備期間があたと見られる。

## 「漁夫の利」を狙うソ連

このようにアルゼンチンに肩入れをして、武力行使を支援するソ連の目的は向であるかと言ふまでもなく、それは米の孤立化、NATO諸国の分断である。

① 4月3日の緊急安保理でソ連は、このフォークランド問題は、「植民地解放問題」であるとして、アルゼンチンの武力行使を黙認するにとどまる。対ア支持を表明したのである。その後一貫して英國批判、ア支持をつらぬいてきたソ連の狙いは何であったのか――  
① NATOの主要戦力である英海軍力を消耗させる。

② 純国支持の米を非難攻撃し、OAS(米州機構)の分裂を図る。――米の孤立化

③ ア軍がフォークランド島を獲得した場合→「ラド島への基地化」

④ ア軍が敗退した場合→軍事援助により、アルゼンチンを同盟国に！



今回の停戦により、アルゼンチン軍の事實上の降伏が決定した今、臺るべきことは、④に示したように、ソ連がかつてエジプトに与えたように、ヒモウキ軍事援助により、その目的である共産化を狙ってくることである。

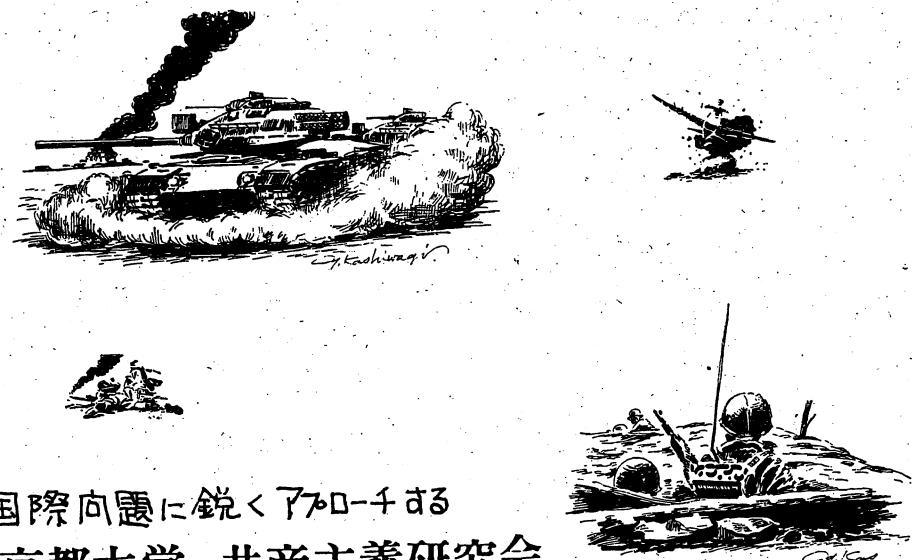
我々、西側諸国との戦後処理の仕方によつては、アルゼンチンに、アガシ・イエン・エチズ・ア等と同じ道を歩ませてしまう恐れがある。

## 根本には南北問題が…

今回のフォークランド問題は、南北問題に対する西側の対応のさばきに共産主義がけり、共産圏を拡大してきたことを我々に再認識させてくれたのである。

米国・中南米関係 ⇒ 西側諸国・中南米 ⇒ ソ連の中南米に対する影響力増大  
の悪化

我々は改めて、この南北問題に真剣にとりむ時期を迎えていたと言えよう。というのも、南の国の共産化は、カンボジアの大量虐殺、餓死等に見られる如く、必ず歴史上にかつてなかったほどの悲劇をもたらすからである！



国際問題に鋭くアプローチする  
京都大学 共産主義研究会